

経済産業省における主ながん対策関連予算について

がん対策関連予算平成22年度概算要求額: 74.2億円 (101.5億円)

()内は平成21年度予算額

1. 医療機器関連 15.1億円 (18.6億円)

○がん超早期診断・治療機器総合研究開発プロジェクト(分野12) 15.1億円(新規)

組織、臓器等の機能を最大限に温存した治療により患者の身体的負担を軽減するため、がんの超早期診断・治療等を総合的に推進する研究開発を行う。

- ①がんを超早期に発見して治療に結びつけるため、信頼性の高い診断の実現に向けた画像診断、病理診断技術、遺伝子診断の研究開発を行う。
- ②従来技術では治療が困難であった超微小ながん等の治療のため、ロボット技術・センシング技術等を活用し、病巣部の位置を正確に把握して高精度に治療する内視鏡下手術支援システムや、次世代放射線治療機器の研究開発を行う。

2. イノベーションの創出・加速 25.5億円 (33.0億円)

○基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発 25.5億(33.0億円)

先進医療技術を創出するために、医療現場のニーズに基づき、多様なバイオ技術など基礎・基盤研究の成果を融合し、円滑に実用化につなげる技術開発(橋渡し研究)を推進。研究開発テーマは、創薬技術、診断技術、再生・細胞医療、治療機器の4分野が対象。

3. 創薬に向けた支援技術 33.6億円 (49.9億円)

○後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発 4.0億円(新規)

がん等の疾患に関与する後天的ゲノム修飾を解析する技術や疾患との関連づけにより診断の指標を特定する手法の開発等を行い、診断技術開発や医薬品開発の効率化に貢献する。

○ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発 15.7億円(28.0億円)

がん等の病気の仕組みを分子レベルで詳細に解析し、新薬候補物質を探索・評価する基盤技術を開発し、治療薬の開発に貢献する。

○糖鎖機能活用技術開発 7.3億円(9.5億円)

がん等の疾患の目印となりうる糖鎖の機能を解明する基盤技術を開発し、疾患の判断指標や治療薬の開発に貢献する。

○新機能抗体創製技術開発 4.3億円(9.0億円)

がん等の疾患に対する治療薬や診断薬等に応用できる抗体の効率的な作成・精製技術の開発を行う。

○個別化医療の実現のための技術融合バイオ診断技術開発 2.3億円(3.4億円)

個人の遺伝的特性に基づく抗がん剤の選択のような、個別化医療を実現に貢献するため、染色体の異常を高感度に解析する技術等の研究開発を行う。